

第34週の発生動向(2006/8/21~2006/8/27)

- ヘルパンギーナについては、青森(第28週~)、上十三(第30週~)、むつ保健所管内(第28週~)で、**警報**が継続しています。
- 流行性耳下腺炎については、上十三保健所管内(第24週~)で、**警報**が継続しています。

第34週五類感染症定点把握

疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															-2
(60) 咽頭結膜熱	3	0.33	1	0.11	2	0.22							6	0.14	-11
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.44	8	0.89	2	0.22	1	0.20			1	0.25	16	0.38	9
(62) 感染性胃腸炎	6	0.67	13	1.44	2	0.22			10	1.67	16	4.00	47	1.12	4
(63) 水痘	9	1.00	10	1.11	7	0.78	1	0.20	7	1.17	7	1.75	41	0.98	0
(64) 手足口病	19	2.11	2	0.22	1	0.11	2	0.40	7	1.17			31	0.74	10
(65) 伝染性紅斑	2	0.22	1	0.11					1	0.17	4	1.00	8	0.19	-2
(66) 突発性発しん	6	0.67	11	1.22	6	0.67	1	0.20	9	1.50	4	1.00	37	0.88	10
(67) 百日咳															0
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ	24	2.67	8	0.89	5	0.56	8	1.60	14	2.33	20	5.00	79	1.88	-3
(70) 麻しん(成人を除く)									1	0.17			1	0.02	1
(71) 流行性耳下腺炎	8	0.89	9	1.00	9	1.00	3	0.60	19	3.17	6	1.50	54	1.29	-18
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	2	1.00	3	1.00	1	0.50	1	1.00	2	1.00			9	0.82	-1
(59) RSウイルス感染症											1	0.25	1	0.09	-1
(82) マイコプラズマ肺炎					1	1.00					5	5.00	6	1.00	0

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

(14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)各届出保健所:青森:3人,八戸:1人,上十三:5人(18年計37人)

感染症の窓

後天性免疫不全症候群

(acquired immunodeficiency syndrome, AIDS , エイズ)

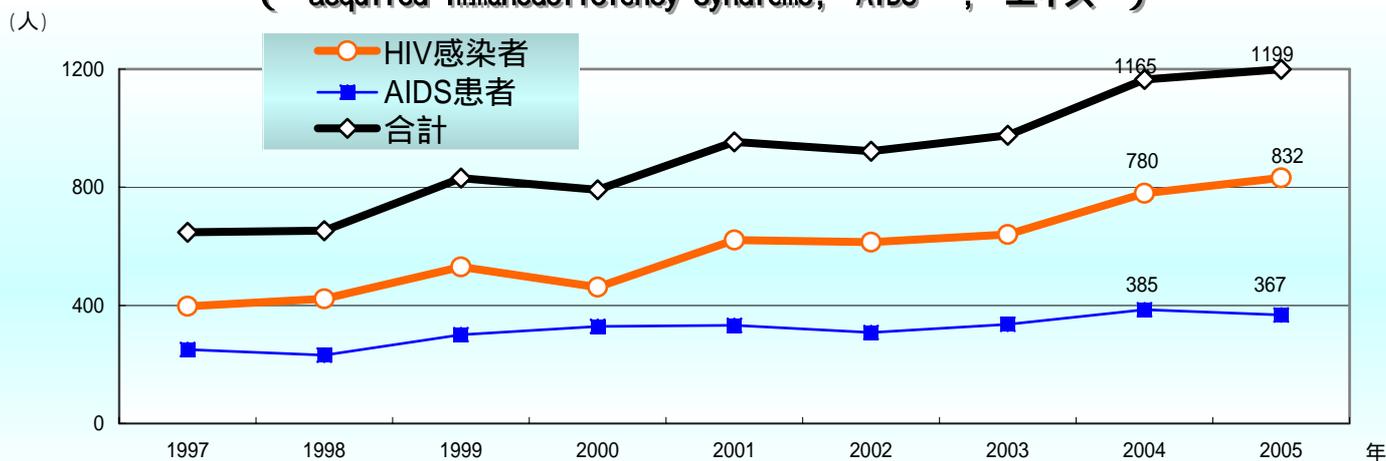


図 1997年から2005年までのHIV、AIDS報告数(統計データ:エイズ動向委員会)

図に示すように、日本国内のHIV感染者(感染しているが、発症していない)数とAIDS患者の発生動向は、**増加傾向**にあります。病原体はヒト免疫不全ウイルス(HIV: Human immunodeficiency Virus)であり、感染経路の98%が性的接触であり、感染者及び患者においては、男性に多いという報告がされています。青森県においては、2005年は9人(HIV感染者:5人,AIDS患者:4人)と過去最高の報告数となっています。2006年は7月31日までに5人(HIV感染者:3人,AIDS患者:2人)の報告があります。本疾患の治療およびその対策については、多剤併用療法の導入により死亡率が激減していることもあり、**感染の不安がある方は、エイズ検査を受けることをお勧めします。**各保健所が窓口となっています。

関連サイト ☞ “STOP AIDS ホームページ” <http://www.pref.aomori.lg.jp/aids/> “
 “エイズ検査受診の呼びかけ” <http://www5.pref.aomori.lg.jp/hoken/11548/cpub.html> “